



平成24年8月27日

卓話 『IMF・世界銀行の役割りと日本の貢献』

財務省 IMF・世銀総会準備事務局長

仲 浩史 様

私の肩書はIMF・世銀総会準備事務局長で、今、東京で開催するIMFと世銀の総会の準備をしております。IMFと世銀は3年に1回、本部があるアメリカ以外の国で総会をやっており、日本では2回目の開催です。私、この総会の準備に当たって、日本はもう一回再出発しなきゃいかんと思いました。一つは震災からの復興、もう一つは長引く景気低迷からの脱却です。そのために必要なのは、一つは絆をもう一度認識すること。もう一つは日本人自身が日本についてもう一度自信を持つことです。

総会は期間中に1万人ぐらい外国人が来て、大小合わせると300ぐらいの会議があります。私も日本を売り込むための工夫として、途上国や新興国の財務大臣を工場見学に連れていくことと、会場の東京国際フォーラムで日本政府の展示をすることを考えています。この展示では日本の最先端技術や日本人の新しい暮らしぶりを紹介します。例えば免震や制震という日本の災害対策技術の優秀さを紹介し、それで日本人が自信を取り戻すきっかけになったらと思っています。総会では出来るだけ若い人を使おうということで学生ボランティアを募集したところ、なんと1700名弱の応募がありました。英語も出来るし機転も効く優秀な方が沢山います。学生が内向きだと言われるけれど、日本も捨てたものじゃないと思えました。

IMFの役割は国際収支困難に陥った加盟国に一時的な資金を提供することです。その原資は各国がIMFに出資したお金。またIMFはドルを多く保有する国からお金を借りてきて、貸し出す原資にしています。担保は通常のような不動産で

はなく、IMFがその国にこういう経済運営をしてくださいと言って付ける条件、コンディショナリティーが担保になります。IMFへの日本の出資額はアメリカに次いで2番目で、日本は株主の立場からIMFの運営方針について意見を言っています。人的な面ではIMFの職員2010名中、日本人は54名で、全体の2.7%に止まっています。出資比率6.6に対してかなり少ないので、この面では頑張らなければいけない状況です。

次に世界銀行です。世界銀行は、国際的な信用力がなく国際金融市場では金を貸してもらえない発展途上国のために国際金融市場から金を借り、それを発展途上国に長期低利で融資するのが基本的な役割です。実は国際金融市場では日本の個人投資家が大きな役割を果たしていて、世銀債も一時期は6割以上を日本の個人投資家が買っていて、今でもかなりの割合を買っています。

現在、日本の財政が非常に厳しく、国会での支援を取り付けるのが難しい状況ですが、こういう資金貢献を通じて我が国が世界に対してものを言える体制は、実に必要なことだと思います。一国一票しかない国連と違って、出した資金がそのまま投票権の大きさに繋がるのがIMF・世銀の特徴です。我々はこれからも世界経済のために資金貢献を続ける必要があると考えています。ありがとうございました。

